

幼稚園における未就園児の保育内容に関する一考察

塩路晶子*, 木村直子*

(キーワード：幼稚園、未就園児、保育内容、子育て支援)

1. はじめに

現在、乳幼児が教育・保育を受けることができる施設は、主なものとして幼稚園・保育所・認定こども園が挙げられるが、それぞれの施設が対象としている乳幼児の年齢や、利用の条件は様々に異なっている。中でも、0歳児から2歳児は、保育所及び認定こども園において過ごしているが、利用できるのは「保育を必要とする」といった条件の「2号・3号認定」された子どもに限られる。平成28年の厚生労働省による「保育所等関連状況取りまとめ（平成28年4月1日）」¹によると、保育所等を利用している1,2歳児は、41.1%となっている。保育所や認定こども園においては、『保育所保育指針』や『教育・保育要領』にもとづいた「ねらい」や「保育内容」を軸に保育が行われている。

また現在、子育て支援の枠組みで、幼稚園においても未就園児、とくに2歳児を対象とした保育が実施されている。振り返ってみると、2歳児を対象とした幼稚園における教育については、平成14年「構造改革特別区域法」第14条において、「満2歳になった後の初めての4月から、幼稚園入園可能」として実施された。しかし、特区事業の評価として「2歳児については、『集団を通した教育』として幼児同士がかかわりあって遊ぶ姿は見られない」ということが指摘され、平成19年3月31日公布で、この第14条が削除されて、特区は認められなくなった。

そこで平成19年に「幼稚園を活用した子育て支援としての2歳児の受入れに係る留意点」²という文書が文部科学省から出され、「個別のかかわりに重点を置いた子育て支援として受け入れる」ものとして位置づけられている。この文書には、幼稚園において2歳児を保育する際の5つの基本的な考え方が示されている。「①2歳児の受入れに従事する者は、幼児との一対一の関係を大切にして信頼関係を築き、幼児が安心して自分の気持ちを表したり、自分の思いで行動したりするように援助することが大切である。②幼児一人一人が、食事、排泄、衣服の着替えなどの健康で清潔な生活の習慣を身に付け、自立しようとする意欲を持つようにすることが大切である。③2歳児の受入れに従事する者は、幼児と一緒にいろいろな遊びをしながら、ものや人などへの興味や関心を引きだし、幼児の世界を広げていくようにすることが大切である。④2歳児の動き方や遊び方を踏まえ、健康や安全に十分に配慮した園舎内外の環境を整備するようにすることが大切である。⑤親子で一緒に活動したりして、保護者が子育ての喜びや楽しみを味わう機会をつくりながら、親として成長できる場を提供していくようにすることが大切である。」また、2歳児にふさわしい保育内容として「①食事、排泄、衣服の着替えなどの基本的な生活習慣を身に付ける。②全身を使う遊び、手や指を使う遊びなどを繰り返して行い、いろいろな体の動きを楽しむ。③自分の好きなものや遊具、遊びなどを見つけ、楽しむ。④友達の遊びに興味を持ったり、先生や友達と一緒に遊んだりする。⑤園生活に必要な言葉や、受入れに従事する者の簡単な指示がわかる。⑥ごっこ遊びなどをする中で、先生や友達と言葉のやり取りを楽しむ。」という6つが挙げられている。

このような子育て支援としての、幼稚園における未就園児の保育は、幼稚園においてどのように実際には実施されているのだろうか。「平成26年度幼児教育実態調査」³によると、「在園児以外の幼児及びその保護者を対象とした事業」のうち、「未就園児の保育」の実施率は、公立幼稚園63.2%、私立幼稚園72%となっている。また、「未就園児の保育」の年間平均実施日数（1園当たり）は、公立幼稚園17.0日、私立幼稚園55.5日である。また、ベネッセ次世代育成研究室的「第2回幼児教育・保育についての基本調査報告書」⁴（2012）によると、子育て支援の一環としての2歳児の受入れについては、国公立幼稚園では07年調査で0.7%、12年調査で3.3%、私立幼稚園では07年調査で26.4%、12年調査で39.7%となって、いずれも受入れ割合が上昇している。また、私立幼稚

*鳴門教育大学幼年発達支援コース

園における2歳児の受入れ頻度については、平日毎日44.5%、週に3、4日12.0%、週に1、2日23.8%、月に1～3日11.5%、年に数回1.9%となっている。

このように、統計上は多くの私立幼稚園において、子育て支援として2歳児の保育が実施されていることがわかる。幼稚園における2歳児の保育についての先行研究としては、栗岡・柏・田中が子育て支援としての幼稚園の2歳児クラスの現状と、保育事例の分析から、保育を行う際のキーワードや3歳児クラスへのアプローチについて明らかにした研究⁶がある。また、榎田⁶は幼稚園教諭の2歳維持保育についての保育観を明らかにしている。埋橋⁷は、イングランドにおいて、2歳児への無償幼児教育の実施が拡充されようとしていることについて紹介している。また、塩崎は『預かり保育』という補足的な形態によってではなく、これからは、必要な場合には保護者の就労保障を含めて子どもの生活を支えることや、幼稚園の教育課程内に三歳未満児の保育を創造していくことなどが、不可避になってくるのではないだろうか。⁸と述べて、2歳児への幼児教育の必要性を指摘している。さらにピアンカ・ザゾは、フランスにおける2歳児が幼稚園で受けている保育について検討を行い、「はやばやと二歳で入園するのがよいのか、もっとあとがよいのか？このことは幼稚園に何を期待し何を要求するかによる。入園年齢はわれわれの社会が定めている目的と、人々の集まりがそのために実行できる手だてとによっているのである。」⁹として、「望ましいかたちとしてまずすべての幼稚園というものに最年少児を優先するように呼びかけるということを取り上げたい。……場所はもっと広く定員はもっとも小さく。」¹⁰といった環境の中で2歳半の子どもの保育を提案している。

幼稚園における2歳児の保育内容については、以上のような先行研究や、「幼稚園を活用した子育て支援としての2歳児の受入れに係る留意点」といった大まかな方針はあるものの、いまだ十分に研究が行われているとはいえない。そこで、本研究は、子育て支援として私立幼稚園が実施している2歳児クラスを中心とした未就園児の保育内容や遊びの実態を調査し、考察を行うことを目的とする。

2. 研究方法

四国及び関西圏の私立幼稚園に対して、子育て支援として私立幼稚園で実施している2歳児の保育についてのアンケート調査を送付した。調査期間は2016年9月から10月で、送付数は846通、回収率は20.6%であった。質問項目としては、私立幼稚園における2歳児保育の取り組みの現状についてと、2歳児の遊び場面における幼児同士のやりとりについて、選択と自由記述の形式を合わせて作成した。

回収した質問紙の中で、自由記述の回答については、2名の幼児教育の専門家によってカテゴリー分類を行った。

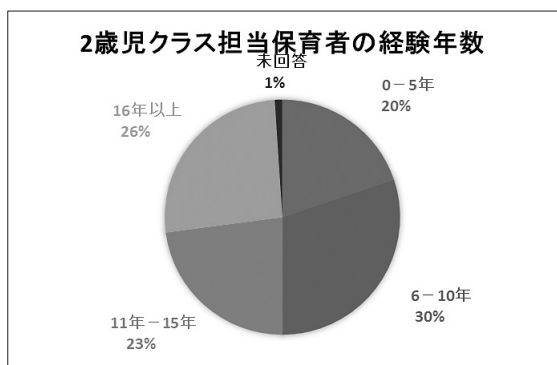
3. 2歳児保育への取り組みの現状についての調査結果

3.1 取り組みの現状

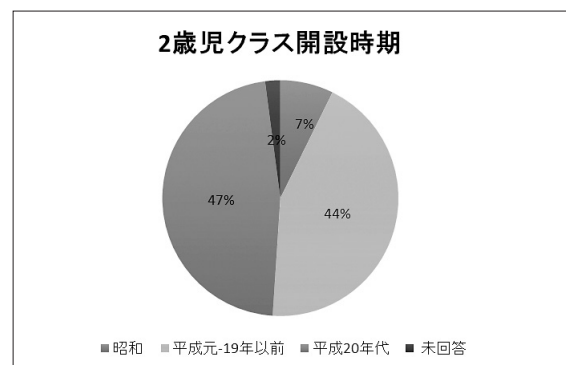
調査の結果、私立幼稚園における子育て支援としての2歳児クラス開設の割合は、約56.0%であった。調査範囲が異なるため、一概な比較を行うことはできないが、ベネッセによる2012年の調査結果が39.7%であったことを見ると、2歳児クラスを開設している私立幼稚園が増えている傾向にあるといえよう。

2歳児クラス主担当保育者の経験年数は、＜図1＞の通りであった。これによると、経験年数0～5年の若手

＜図1＞



＜図2＞



保育者は20%に過ぎず、比較的経験年数の多い中堅や、ベテラン保育者が2歳児クラスを担当していることが分かった。さらに、2歳児クラスの開設時期については、＜図2＞の結果となった。平成19年以前に開設している幼稚園も半数以上あり、長期間開設されていることから、2歳児クラスの保育内容もある程度は精選されているのではないかと考えられる。

また、2歳児クラス専用の保育室があるかどうかについては、「専用の部屋あり」が84.5%、「臨時使用」が15.5%であった。専用の園庭があるかどうかについては、「専用の園庭なし」が92.8%、「専用の園庭あり」が4.1%、「不明」が3.1%であった。

3.2 2歳児クラス開設のタイプ

開設されている2歳児クラスのタイプを分類すると、開設日数、クラスへの参加者、一クラスの子どもの人数は、＜表1＞のようになった。これによると、週4～6日開設している幼稚園が約半数を占めていて、このタイプでは、ほとんどすべての園において子どものみが保育に参加していた。また、週1～3日開設している幼稚園も多かったが、このタイプでは、子どものみが保育に参加する以外に、保護者も子どもと一緒に保育に参加することもあった。月1～2回開設されているタイプでは、ほとんどすべての園で子どもと保護者が一緒に参加しており、クラスの規模も30人程度と大きかった。中には、保育に出席する週当たりの日数を、保護者が選択することができるタイプもあった。

＜表1＞

| 開 設 日 数 | 開設園の割合(%) | 参 加 者 | 一クラスの子どもの人数 |
|----------------|-----------|---------------------|-----------------|
| 週4～6日 | 46.4 | ほとんどすべての園で子どものみ | 15人前後から20人前後くらい |
| 週1～3日 | 39.2 | 子どものみが多いが、保護者参加型もあり | 15人前後から20人前後くらい |
| 月1～2日 | 10.3 | ほとんどすべて保護者参加型 | 30人程度 |
| 毎日または週1～3日から選択 | 4.1 | | |

3.3 2歳児クラス 一日の保育スケジュール

アンケート調査によると、幼稚園における2歳児クラス一日の保育スケジュールは、大きく分けて3つのパターンを見出すことができた。パターン①午睡あり、パターン②午睡なし・給食(弁当)あり、パターン③午睡なし・給食(弁当)なしの3つである。以下、3つのパターンのスケジュールを以下の＜表2＞＜表3＞＜表4＞にした。

これらの表を見ると、一日の保育スケジュールの違いによって、幼児が経験する保育内容に違いがある。例えば、給食(弁当)のあり・なし、午睡のあり・なしによって、食事や衣服の着脱などについての基本的な生活習慣を幼稚園で経験するかどうかの違いが生じる。また、どの保育スケジュールのパターンにおいても、室内での遊びと戸外での遊びは合わせて1時間から1時間半程度であった。

＜表2＞パターン①午睡あり

| 時 間 | 活 動 内 容 |
|--------|---------------------------|
| 9:00～ | 朝のおやつ |
| 9:20～ | トイレ |
| 9:30～ | 部屋遊び(好きな興味ある遊び)ブロック、ままごと |
| 10:00～ | 給食準備 |
| 11:00～ | 食べ始める。給食を終了した子から好きな遊びを楽しむ |
| 11:10～ | 昼寝タイム |
| 12:30～ | 起床、遊び |
| 14:45 | おやつ |
| 15:00 | お迎え |
| 16:00 | 居残りクラスへ移動 |
| 16:05～ | |

＜表 3＞パターン②午睡なし・給食（弁当）あり

| 時 間 | 活 動 内 容 |
|-------|--------------------------------|
| 10：00 | 登園，持ち物の始末，トイレ，点呼，あさのうた，出席をとる |
| 10：20 | 絵本の読みきかせ，紙芝居／手あそび |
| 10：40 | 園庭での外あそび，製作活動，室内あそび |
| 11：20 | 昼食準備（手洗い，トイレ，ランチマットやフォーク等を並べる） |
| 11：40 | 昼食 |
| 12：40 | 片付け，うがい，トイレ／お帰りの用意（歌） |
| 13：00 | 降園 |

＜表 4＞パターン③午睡なし・給食（弁当）なし

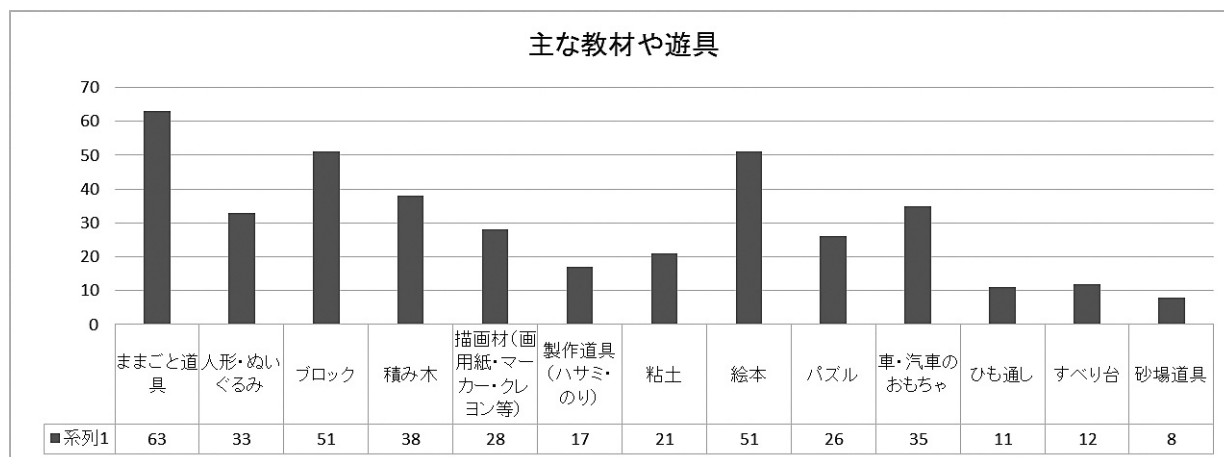
| 時 間 | 活 動 内 容 |
|-------|----------------|
| 9：00 | 登園，室内遊び |
| 10：00 | 朝の活動，製作他……設定保育 |
| 10：30 | おやつ，戸外遊び |
| 11：15 | 降園準備 |
| 11：40 | 降園 |

4. 2 歳児クラスの遊びと保育内容

4.1 2 歳児クラスにある教材・遊具

アンケート調査において，2 歳児クラスにある教材・遊具について質問したところ，主なものは以下の＜図 3＞のようになった。

＜図 3＞



主な遊具は「ままごと道具」「ブロック」「絵本」「積み木」「車・汽車のおもちゃ」などであった。

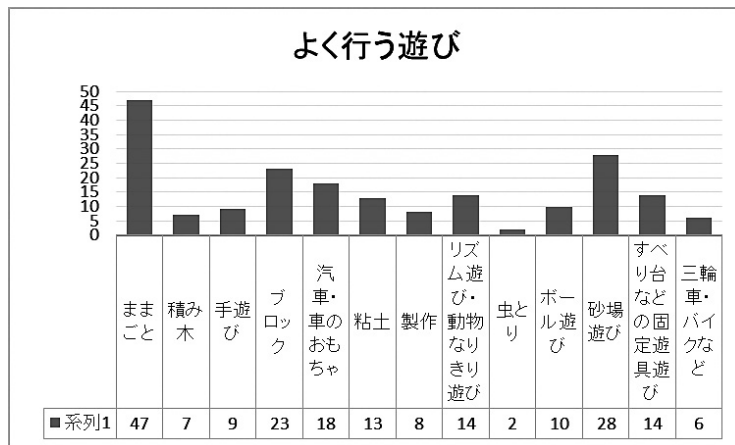
「ブロック」は「レゴ」などで大きさの違うもの，「積み木」も大きさや材質の違うもの（木製，ウレタンなど），絵本には大型絵本も含まれている。「車・汽車のおもちゃ」は，プラスチックや木製のレール等も合わせて準備されている。「すべり台」は，幼稚園児とは別に，2 歳児用に小さいすべり台（室内用も含む）を用いている。その他としては，「ひも通し」「リズム打楽器（タンバリン，カスタネット等）」「パズル」等が挙げられる。2 歳児の発達に適した指先を使った遊びを行うことができるブロックや積み木，粘土，ひも通しなどが環境として準備されていることがわかる。また，ままごと道具は一人でじっくりと遊びに夢中になるだけでなく，気の合う友達との簡単なやりとりを生み出すこともできているのではないかと考えられる。

さらに，2 歳児クラスの主な教材や遊具としては，室内で用いるものが多い傾向にあることもわかった。

4.2 2歳児クラスでよく行う遊び

それでは上記のような教材や遊具を環境として、2歳児がよく行っている遊びについて質問した。結果は＜図4＞の通りである。また＜図4＞以外のその他の遊びとしては、「散歩」「絵本を読む」「わらべ歌遊び」「体操・サーキット」など体を動かす遊びなどもあった。これを見ると、上記の教材や遊具を用いた「ままごと」や「ブロック」などの室内遊びはもちろんだが、「リズム遊び・動物なりきり遊び」「体操・サーキット」といった体を動かす遊びを行っていることもわかった。また、「砂場遊び」にも取り組んでおり、2歳児は幼稚園の室内外で多様な遊びを行っているということになる。 「リズム遊び」や「砂場遊び」「体操・サーキット」などは特に、家庭において実施することの少ない遊びといえよう。また、「ままごと」「ブロック」「砂遊び」といった自由な遊びだけでなく、保育者の指導が想定される「リズム遊び」「体操」なども、2歳児の保育内容として実施されているようである。

＜図4＞



4.3 2歳児がよく行っている遊びについての自由記述

2歳児がよく行っている遊びの様子を自由記述してもらったところ、上記の遊具を用いた遊び以外にも、「保育者とのスキンシップ」「片付け（遊び）」「鬼ごっこ」「一緒に走り回って、友達とのコミュニケーションを楽しむ」などの遊びの内容が記述された。

また、遊びの様子としての自由記述を分類したところ、＜表5＞のようなカテゴリーを見出すことができた。

＜表5＞

| |
|---|
| 一人一人が好きな遊びを楽しむ |
| 自分で何でもやってみようとする |
| 甘える、先生とのかかわりを求める |
| 思いを言葉でうまく伝えることができない |
| 3歳児の子どもの遊ぶ姿に刺激を受けて、あこがれを抱いたり、まねようとしたり、1歳児の子どもの片づけを手伝ったりする |
| 困っている友達に言葉をかけたり、手伝ったりする |
| 気の合う友達と一緒に遊んで楽しむ |

一人一人の遊びを満足いくまで行い、何でも自分でやってみようとすることは、2歳児の遊びの土台となる姿である。さらに思いを言葉でうまく伝えることができないこともあるが、他児の存在を意識したり、2歳児なりに他児にかかわろうとしたりする子どもの姿がよくわかる。また、3歳児がしている遊びの姿に刺激を受けて、自分もまねようとする2歳児の姿は、たとえ直接3歳児と一緒に遊ぶことはなくても、遊んでいる姿を「見る」というだけで、年齢の近い異年齢の子どもとのかかわりの意義といえよう。

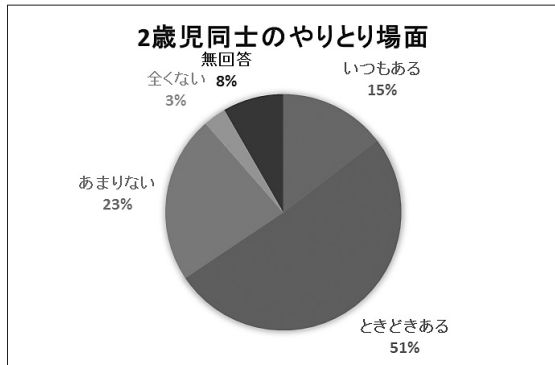
それでは、2歳児は遊びの中でどのようなやりとりを行っているのだろうか。

5. 2歳児の遊びにおけるやりとり場面

アンケート調査の質問紙において、「二人の2歳児が、ままごとをしていて、やりとりをした場面の事例」を提示し、このような場面がみられるかを質問したところ、＜図5＞のグラフのような結果になった。

回答によると、「いつもある」「ときどきある」を合わせると、66%になり、2歳児なりにやりとりをしたり、かかわって遊んでいる様子が見られることが明らかになった。

＜図5＞



また、上記の例以外に、2歳児が他児とかかわる場面を記述してもらったところ、多くの具体的事例が挙げられていた。それらの事例を分析し、他児とかかわる2歳児の姿を分類したところ、下記の＜表6＞のようになった。

＜表6＞

| |
|--|
| 使いたいものの取り合いになり、主張したり、怒ったりする。時には保育者が仲立ちする |
| 使っているものを取られると、相手も欲しいのだということが分かり、子どもが自分で同じものを探して渡したり、保育者が渡したり、「一緒にしよう」と言葉で言ったり、かわりばんこにしたりして、一緒に遊ぶ |
| 一瞬、衝突したかのように見えるが、怒ることなく友達を受け入れ、そこから発展的に子ども同士で遊ぶ |
| 言葉ではうまく意思を伝えられなくても、身振りや表情、アイコンタクトで他児とかかわる |
| 他児の始めた遊びに自分の遊びを重ねたりつなげたりする、他児もそれを受け入れる |
| 年長の幼稚園児の遊びを見て、自分の遊びに取り入れる |
| 一緒にすることで（偶然に）別の遊びが生まれ、楽しむ |
| 他児のやりたい思いを汲んで、自分のもっているおもちゃをゆずる |
| 他児のためにしてあげる |

先にも述べたように、2歳児は言葉で自分の思いをうまく伝えることが十分にできないため、ものの取り合いや主張のし合いが起こりやすいだろう。もちろんその主張が過度になったり、手が出てしまったりしないように、保育者が仲立ちをすることは必要であろうが、取りあったり、主張したりすることによって、「相手も欲しいのだ」といことが分かってくるようになる。友達の実在を知るためには、主張したり取り合ったりする姿がその第一歩になるのであろう。

また、言葉で伝えることができなくても、「身振りや表情」などで他児とかかわったり、受け入れたりすることもある。衝突するだけではなく、他児の思いを受け入れるということも経験していくのである。2歳児なりのコミュニケーションの手段を用いて他児にかかわり、遊びをさらに楽しむことができるようになる。一人遊びとは違う、他児と一緒に遊ぶことによって生まれる楽しさを経験することが大切である。

アンケート調査の自由記述から見える2歳児のかかわりは、大人が思う以上に、柔軟で寛容なかかわりであると思われる。それは、年長児に見られるような友達との役割分担や論理的思考を積み上げていくようなかかわりではない。しかし、主張や衝突だけでなく、柔軟に寛容に友達を受け入れ、ゆるやかに遊びを重ねていく2歳児の姿も見られるのである。

6. 2歳児の教育に大切なこと

6.1 2歳児クラスを開設している幼稚園保育者が考える2歳児の教育に大切なこと

2歳児クラスを開設している幼稚園保育者が考える、2歳児クラスにおいて大切なことをアンケート調査で自由記述してもらったものを分類したところ、下記の＜表7＞のような結果になった。（ ）内は、記述に表れた件数である。

＜表7＞

| | | |
|--------|--|---|
| 子どもの経験 | 挨拶や生活習慣の基礎を身に付ける (34) | 生活習慣の基礎 |
| | | 基本的な挨拶ができる |
| | | 規則正しい生活リズム |
| | | 挨拶や思いやりなど、家庭で経験できないこと |
| | | 座る姿勢 |
| | 安心してのびのびと過ごす (12) | 安心して幼稚園生活を楽しむ |
| | | 安心してのびのびと過ごす |
| | | 家庭的な雰囲気 |
| | | 安心して好きな遊びをする |
| | 1人ひとりの好きな遊びを充実する (6) | 1人ひとりの好きな遊びを充実する |
| | | したい気持ち、好奇心を遊びを通して引き出す |
| | 自分の思いや好奇心を遊びの中で表現する (17) | 自分の思いを言葉で伝えることができる |
| | | 自分で考え、行動できるように |
| | | 自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ |
| | | 自分の思いを遊びの中で表現する |
| | | 保護者とのふれあい |
| | 子どもと保護者のふれあい (6) | 親子の愛着、安心 |
| | | 親子で安心して遊ぶ |
| | | 親子のかかわり |
| | 家族以外の人と接する（他者とのかかわり、社会性を身に付ける）(17) | 家族以外の人と接する（他者とのかかわり、社会性を身に付ける） |
| | 子ども同士の集団の中で自分を発揮し、受容してもらう、集団生活におけるルール、友達と遊ぶ楽しさを知る (34) | 少人数グループ、大人の目の届く安心 |
| | | 他者とのかかわり、社会性を身に付ける |
| | | 集団生活でのルールを身に付ける |
| | | 友達と遊ぶ楽しさを知る |
| | | 他者とのかかわり、社会性を身に付ける |
| | | 子どもが集団の中で自分らしさを出す |
| | | 集団生活でのルールを身に付ける |
| | | 集団の中で自分を発揮する、受容してもらう |
| | | 他児と並行して遊びつつ、一緒に遊び楽しさを知る |
| | | 集団で遊んで、友達と遊ぶ楽しさを知る |
| | | 順番待ちや貸し借りのルール（集団のルール）を知る |
| | | 友達と遊ぶ楽しさを知る |
| | | 集団生活におけるルールを知る |
| | | 子ども同士の育ち合い |
| | | 子ども同士の集団の中での、自己コントロールやコミュニケーション力 |
| | | 子ども同士のかかわり |
| 保育者の支援 | 体をよく動かす外遊び (4) | 体をよく動かす |
| | | 体をよく動かす、外遊び |
| | 子どもの自己主張や、発達の個人差など、一人一人を受け止め、個別に丁寧に対応する (10) | 自己主張、言葉の発達、物の取り扱いなどの子どもが育つ道筋を踏まえて、個人差に留意、個別に丁寧に対応 |
| | | 自己主張や自分でしたい気持ちを受け止める |
| | | 1人ひとりを認める |
| | | 子どもと保育者の信頼関係 |
| | | 一人一人の気持ちを受け止める |
| | 子ども一人一人を受け止め、信頼関係をつくる (10) | 一人一人の安心感 |
| | | 一人一人の思いを受容する |
| | | 子どもと保育者の信頼関係 |
| | | 親教育、子育て支援 |
| | | 保護者と保育者の関係性、子育て支援 |
| | 保護者と保育者の信頼関係、子育て支援 (15) | 親教育、子育て支援 |
| | 保護者同士の関係性 (2) | 保護者と保育者の関係性、子育て支援 |
| | | 保護者同士の関係性 |

幼稚園保育者が大切と考えていることは大きく分けると、「子どもの経験」に関連することと、「保育者の支援」に関連することである。「子どもの経験」としては、「挨拶や生活習慣の基礎を身に付ける」「安心してのびのびと過ごす」「体をよく動かす外遊び」「家族以外の人と接する（他者とのかかわり、社会性を身に付ける）」「子どもと保護者のふれあい」「子ども同士の集団の中で自分を発揮し、受容してもらう、集団生活におけるルール、友達と遊ぶ楽しさを知る」「自分の思いや好奇心を遊びの中で表現する」「1人ひとりの好きな遊びを充実する」といったことがカテゴリーとして挙げることができた。

トイレトレーニングや挨拶、生活リズムといった生活習慣の基礎に関連することを身に付けることは、2歳児にとって重要な課題である。家庭で行うだけでなく、保育の場においても、保護者と連携しつつ、これらのことが身に付くように支援していくことが大切であると考えられているのであろう。

保護者とのふれあいに関連するカテゴリーもあったが、2歳児にとって、保護者との信頼関係がベースにあることが重要視されていることがわかる。そしてそのベースをもった上で、初めて家族と離れる時間を幼稚園で過ごす経験をするときに、安心して過ごすことが大切なのである。

また、一人一人の好きな遊びの充実や、自分の思いを遊びの中で表現することも重要視されている。先の「遊び」についての調査項目の考察にも挙げたが、やはり2歳児としては自分の思いを出し切って、好きな遊びを満足いくほど行うことが大切なのである。その時には、体を動かす外遊びも大切と考えられており、家庭では安全やスペースの課題もあって、十分に行うことが難しい外遊びを、幼稚園で充実して行うことができればよいと思われる。

さらに、友達と遊ぶ楽しさを知っていくことも大切と考えられている。少子化の影響もあって、近隣に同年齢の子どもが少なく、一緒に遊ぶ機会が減少している。遊びについての質問でも見たように、2歳児も他児を意識したり、ゆるやかにつながって遊ぶ経験をすることも必要な経験と考えられているのであろう。

「保育者の支援」に関連することとしては、「子どもの自己主張や、発達の個人差など、一人一人を受け止め、個別に丁寧に対応する」「保護者と保育者の信頼関係、子育て支援」「子ども一人一人を受け止め、信頼関係をつくる」「保護者同士の関係性」というカテゴリーを見出すことができた。2歳児が初めて保護者から離れ、幼稚園というなじみのない場所、家庭よりもずっと広い場所で過ごすとき、保育者との信頼関係や、一人一人への受容的かかわりが何よりも大切になろう。また、個人差が大きい2歳児の保育については、個別の丁寧なかかわりも必要不可欠となると考えていることがわかる。つまり、2歳児のクラスといっても、大きな「集団」として子どもを保育するのではなく、一人一人の子どもに丁寧にかかわりながら、信頼関係をつくり、子どもが自己を発揮できるようにすることが大切であると保育者は捉えているのではないだろうか。

また、このように子どもたちに対して保育するときには、保護者との信頼関係を築くことも重要であり、子育て相談に応じるなど、保護者との直接のかかわりにも目を向けなければならないと考えていることがわかった。保護者同士の関係性をつなぐという、子育て環境を整えるという役割も、保育者は担おうとしていることもわかった。

6.2. 2歳児クラスを開設していない幼稚園の保育者が考える2歳児の教育に大切なこと

2歳児クラスを開設していない幼稚園保育者が考える、2歳児の教育において大切なことをアンケート調査で自由記述してもらったものを分類したところ、下記の＜表8＞のような結果になった。これも、「子どもの経験」と「保育者のかかわり」と大きく分けることができた。「子どもの経験」としては、「遊びの広がり」「保護者以外の大人との安定したかかわり」「基本的生活習慣」「子どもの集団適応」「自分でやろうとする気持ち、満足感」というカテゴリーを見出すことができた。先に検討した2歳児クラスを開設している幼稚園の保育者が考えることと、おおよそは同じようなカテゴリーといえる。また、「保育者とのかかわり」としては、「発達に合った環境や保育内容の構成、遊びの提供」「3歳以降の幼稚園生活への土台づくり」「個別的な対応」「家庭的な雰囲気」「保育者の力量形成」「子育て支援」「子どもと保護者の信頼関係、愛着」「親同士のコミュニケーションの場づくり」といったカテゴリーが見出された。これも先に検討したものとおおよそ同じようなものである。しかし、2歳児クラスを開設していない保育者は、子どもと保護者がこの時期に信頼関係を形成したり、愛着をもったりすることを特に重視しているという特徴があった。2歳児の時期には家庭で教育することが大切と考えられているのである。また、2歳児の保育にたずさわるための保育者としての力量を身に付けることも必要であると考えていることがわかった。

＜表 8＞

| | | |
|--------|--------------------|--|
| 子どもの経験 | 基本的生活習慣 | 基本的生活習慣（17） 生活リズム |
| | 保護者以外の大人との安定したかかわり | 友達や先生への親しみ 大人との安定した関係 他者とのかかわり 他者とのかかわり方 保護者以外の大人との信頼関係を築いて、家庭以外の場所で過ごすことができるようになる 他の大人や子どもとのかかわり 信頼できる大人との安定した関係と基本的信頼感の獲得 |
| | | 自分でやろうとする気持ちを育てる 自分でできた満足感を味わせる 自分の気持ちを立て直す力 主体的に遊ぶ |
| | 遊びの広がり | 豊かな感性 遊びの環境の充実 語彙が増える 手指や身体能力の向上 心豊かに育つ基盤 多くの経験をさせる 感動 遊びの広がり 言葉の広がり いろいろな遊びに取り組み、おもしろい、楽しい、難しいなどの気持ちを持つ のびのびと遊び、安定した園生活を楽しく過ごす |
| | | 子どもの集団適応（2） 友達や先生への親しみ 集団での経験 集団でしかできない遊び 子どもが集団を意識する 集団に入るのではなく、人とのつながりを構築する 友達がしている遊びに興味を持ち、自分もやってみる意欲を味わう 集団生活の楽しさ 短時間での集団保育 子ども同士のかかわり |
| | | 発達に合った保育内容の考慮（3） 環境の構成 十分な指導計画 危険のない環境の構成 保育に重点をおいた教育 落ち着いて遊べる環境構成 遊びに夢中になれる環境づくり 同年令や異年令とかかわれる環境づくり 年齢に応じた遊びの提供 年齢に応じた遊びの提供（積み木、ブロック、外で思い切り遊ぶ） 一人一人の子どもが幼稚園生活が楽しいと思える環境構成 物的環境構成 |
| | | 3歳以降の幼稚園生活への土台づくり 3～5歳につながる一貫した育ちの土台づくり 3歳児の集団生活にスムーズにつなげる |
| | 個別的な対応 | 個別的な対応（2） 自立を促す丁寧なかかわり 個々のペースに合わせた援助 個々の発達を踏まえる 発達段階と個人差を理解する 自己の主張を認める 保育者が母親のように接する |
| | | 家庭的な雰囲気 家庭の生活と園での集団生活の橋渡し 家庭的で温かい雰囲気 保育者の人材確保 発達や病気に関する知識 愛着、安心、安全、愛情 教育でなく、保育 保育者の人材確保 |
| | 保育者の力量形成 | 2才児の保育を行うことができる保育者の力量形成（2） 子育て支援（8） 家庭との連携（3） 親教育、保護者対応 保護者との連携、子育て相談、子育て支援 保護者とのかかわり 親と保育者とのコミュニケーション 保護者との信頼関係、愛着関係 保護者に2歳児の発達を理解してもらう 保護者との共通理解 |
| | | 子どもと保護者の信頼関係、愛着 家庭における母親とのふれあい 親子関係 子どもと保護者の愛着、信頼関係 子どもと保護者の信頼関係 家庭で愛されることで、周りの人に信頼をもつ 親とのふれあい、親からの優しいかかわり 親と子どもの愛着 母子の関係を築く 家庭で教えてほしい 3歳児くらいまでは父母が育てるべき 父母との安定した幼児期 1対1での親子の絆 家庭教育の重要な時期 親同士のコミュニケーションの場づくり 保護者同士のかかわり |
| | 親同士のコミュニケーションの場づくり | 保護者同士の関係 |

7. まとめ

以上のように、幼稚園における子育て支援としての未就園児の保育について、特に2歳児の保育の現状を明らかにしてきた。幼稚園における2歳児の保育には、様々な保育時間のパターンがあることが分かった。保育時間の長さによって、食事や衣服の着脱等の基本的生活習慣の幼稚園での経験は異なってくるが、保育者は、2歳児にとって基本的生活習慣を身に付けることが重要であると考えていた。また、遊び時間の長さは室内外合わせておおよそ1時間から1時間半程度であることも分かった。

また、2歳児クラスにある教材・遊具としては、ままごと道具や絵本、ブロック、積み木、車・汽車のおもちゃ等、家庭にあるおもちゃ類と同じようなものが準備されている。一方で、家庭には少ないと思われる滑り台やリズム打楽器等も準備されていた。よく行う遊びとしては、遊具・教具を用いて子どもが自由に遊ぶままごとや、ブロック・積み木を用いた遊び、また戸外での砂場遊びを行っている。砂場遊びは、砂の衛生面の管理が必要であるし、子どもの衣服の汚れへの対応など、現在の家庭で行う遊びとしてはハードルが高い場合もある。しかし、砂・土・水などは可塑性の高い素材であり、2歳児がその感触を楽しんだり、形状の変化に興味をもったりするのに適した素材となっている。そのため、砂遊びは2歳児が幼稚園において経験するのにふさわしい遊びであるといえる。また保育者の指導によって行われるリズム遊び等も行われており、リズム遊びにはリトミックのような音楽的要素の多いものから、わらべうた遊びのような伝承遊びも含まれると考えられる。保育者の専門的指導を通したリトミックによって、音や動きを楽しむ経験、また保育者が媒介となって伝承遊びをうけついでいくという経験を2歳児はすることができている。このように、2歳児は、家庭でしているのと同じようななじみのある遊具で遊んで、安心して幼稚園で過ごしつつも、家庭では行わないような新しい遊びや、保育者や他児との遊びに出会って、遊びの経験の幅を広げているといえよう。少子化で地域や家庭に子どもが少なく、また、地域の安全な遊び場が少なくなりつつある現在、幼稚園など幼児教育の施設においてこそ、のびのびと体を動かすことや戸外での自然体験など、家庭以外の場で2歳児が経験できることが多くある。

さらに、2歳児はこれらの遊びを通して、一人一人が自分の遊びを満足いくまで行ったり、何でも自分でやってみようとしていたりしている。思いを言葉でうまく伝えることができないこともあるが、他児の存在を意識し、2歳児なりに他児にかかわろうとする姿も浮かび上がった。つまり、2歳児は自分の思いを主張したり、他児と衝突したりしつつも、柔軟に他児を受け入れたり、ゆるやかに他児とつながって、遊びを広げていったりする姿も見られるのである。

またこれらの2歳児の姿は、一人一人の子どもの思いを受け止め、信頼関係をつくるといった、保育者による支援によって支えられている。保育者は2歳児が他児とかかわったり、一緒に遊ぶ楽しさを知ることは重要視しているが、2歳児をまとめた「集団」としてみなすことはない。2歳児の保育において保育者の果たす役割は大きい。保育者は家庭との連携を重視し、一人ひとりを理解し、発達に適した遊びを提供し、子ども同士がゆるやかにかかわることを支援しているのである。

本研究で明らかになった、子育て支援としての幼稚園における未就園児、とくに2歳児の保育の実態を手がかりに、今後も2歳児の保育の在り方を具体的に考えていく必要がある。子どもの育ちを第一に考えたときに、家庭を基盤としつつも、2歳児の子どもにとってふさわしい生活や遊び、保育内容、必要な経験ができる環境づくりが求められているのではないだろうか。

¹厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」、平成28年4月1日

²文部科学省「幼稚園を活用した子育て支援としての2歳児の受入れに係る留意点」、平成19年3月31日

³文部科学省「平成26年度幼児教育実態調査」、平成27年10月

⁴ベネッセ次世代育成研究室「第2回幼児教育・保育についての基本調査報告書」2012年

⁵栗尾明美・柏まり・田中亨胤「幼稚園における子育て支援センターとしての役割Ⅰ」『教育学研究紀要』中国四国教育学会、第55巻、2009年、397-402ページ、柏まり・栗尾明美・田中亨胤「幼稚園における子育て支援センターとしての役割Ⅱ」『教育学研究紀要』中国四国教育学会、第55巻、2009年、391-396ページ、柏まり・栗尾明美・田中亨胤「幼稚園教育課程にゆるやかにつながる2歳児保育計画Ⅰ」『教育学研究紀要』中国四国教育学会、第57巻、2011年、557-562ページ、栗尾明美・柏まり・田中亨胤「幼稚園教育課程にゆるやかにつながる2歳児保育計画Ⅱ」『教育学研究紀要』中国四国教育学会、第57巻、2011年、563-568ページ

⁶榎田二三子「2歳児保育における幼稚園教諭の保育観に関する一考察」『武蔵野教育學論集』1号、2017年、1-9ページ

⁷堀橋玲子「イングランドにおける2歳児を対象とする無償幼児教育の実施について」『同志社女子大学 学術研究年報』第65巻、2014年、13-21ページ

⁸塩崎美穂「お茶の水女子大学「幼・保・大」連携保育研究の試み（40） 幼保の連携に向けて：移行期としての2歳児保育」『幼児の教育』2010年4月、58-63ページ

⁹ピアンカ・ザン著 久保田正人ほか訳『2歳児の幼稚園教育は是か非か』大月書店、1989年、258ページ

¹⁰同上書、260ページ

A Study of the Environment of Education and Care for Infants in Kindergarten

SHIOJI Akiko and KIMURA Naoko*

(Keywords : kindergarten, infants, content and environment, support for child-rearing)

The purpose of this paper is to clarify the environment of education and care for two-year-old children in kindergarten. Kindergarten education of two-year-olds serves to support parents in the child-rearing process.

Two-year-olds cannot formally enroll in kindergarten, because under the law children start kindergarten at the age of three.

According to a questionnaire survey, there are various time schedule patterns pertaining to the education and care of two-year-olds. There are also family-oriented toys and other toys unique to kindergarten available at these facilities. In this environment, the children feel safe and also play with their usual toys. They can also broaden their experience by playing in the sand areas in the same rhythm with other children and preschool teachers. Preschool teachers believe it important to establish solid relationships with these children and consider each child carefully.

*Naruto University of Education, Early Childhood Education, Care and Welfare